

申出書

私（空条 承太郎）の長女である空条 徐倫（くうじょう じょりいん）の旅券におけるローマ字表記を、ヘボン式の”KUJO JORIN”ではなく、”KUJO JOLINE”にしたいと、申し出ます。理由は以下の通りです。

本人（徐倫）は母が米国人であり、かつ本人は誕生後 10 年以上の長期にわたり米国に留まって生活することから、国字よりもむしろ米国におけるアルファベット表記を重視して名前を付けました。米国に永住する可能性も高い娘の将来を、親として真摯に考えてのことです。

徐倫は新生児ではありますが、出産前から米国の地域社会の人達に JOLINE の名前で広く認知され、米国政府や市役所も本人を非ヘボンの名前で認知しております。新生児といえども、「”KUJO JOLINE”という氏名での生活実態がある」ことは明らかです。以下に引用する外務省の方針からも、JOLINE という非ヘボン名の使用が適当だと確信しています：

近年、氏名、特に名について、国字の音訓及び慣用にとらわれない読み方の名や外来語又は外国風の名を子に付ける例が多くなる等、旅券申請において表記の例外を希望する申請者が増えていることから、その氏名での生活実態がある場合には、非ヘボン式ローマ字表記であっても、その使用を認めることとしました。

(外務省ホームページから引用:

http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pass_4.html#q17)

さらに申し上げるならば、既に”JOLINE”という名で米国に住民登録されているため、もしも”JORIN”を採用するならば、それぞれ重要な身分証明書である旅券、住民票、滞在許可証の間に不整合が生じてしまいます。これにより、今後 10 年以上にわたり米国で生活して行く予定である本人の社会生活がきわめて不便になるばかりでなく、最悪の場合には国外退去等の著しい不利益が生じる危険性が無視できません。

以上の理由により、”KUJO JOLINE”という表記での旅券発行を強く希望いたします。

なお、今後は如何なる理由があろうとも上記の表記を変更しないことを誓います。

平成 22 年 9 月 17 日